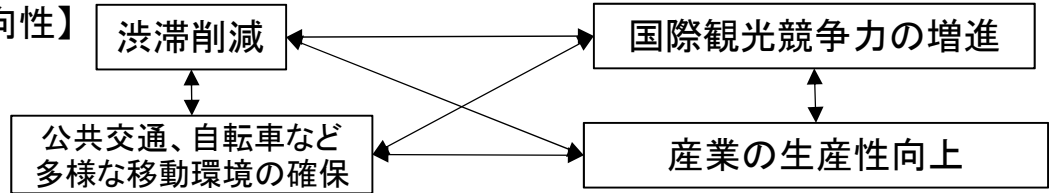


沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会「中間とりまとめ」の概要

【検討の背景】

全国一の渋滞 全国県庁所在地で最低 ピーク時の速度: 16km/h	極端なマイカー依存 自家用車依存率: 90.4% 公共交通利用率: 3.2%	観光客の急増 H27年度: 約800万人 観光収入H24→H27で約1.5倍	高齢化の進展 今後5年間で超高齢社会に [高齢化率22.9%(H32)]
--	---	---	---

【目指すべき方向性】



【取り組むべき施策(主な対策例)】

道路ネットワーク整備等

- ハシゴ道路ネットワーク等、幹線道路網の整備(浦添北道路、南部東道路など)
- 渋滞ボトルネック箇所における交差点改良および立体化(安次嶺、旭橋など)
- インターチェンジの整備推進(幸地)、インターチェンジの整備の検討(池武当、喜舎場など)
- 沖縄自動車道の有効活用(高速道路の利用促進に向けた割引制度の継続・拡充の検討)

地域の公共交通システムの再編・活性化

1)公共交通の整備・再編

- 都市モノレール運用の効率化(増便など混雑対策の推進)
- 基幹バス(BRT等)の導入、バス網の再編
- 自動運転の導入(自動運転の社会実験実施)

2)交通結節点の整備(異なる交通モード間の接続[モータルコネクト]の強化)

各地域の結節点の創出に向けた戦略的展開

- ・てだこ浦西駅におけるパーク&ライド駐車場整備[H30春を目標に整備中]
- ・旭橋バスターミナルの整備[H30春を目標に整備中]
- ・商業施設等既存施設(ライカム等)や新たな拠点を活用したバスターミナルの整備の検討
- ・まちの拠点や道の駅で公共交通機関などを利用できる結節点の全県的な整備の検討

3)歩行者や自転車などにも優しい道路空間の再編・創出

国際通りの再編(トランジットモールの展開やフリンジパーキングの整備、違法駐車対策など道路空間の再編の検討)、自転車利用の促進

公共交通の使いやすさの向上

1)使いやすさの向上に向けた情報提供システム等の整備

(結節点でのIoTを活用した観光客や外国人への情報提供)

2)ICカード等を活用した公共交通利用促進策

ICカード利用による各種割引等(ICカード利用による乗り継ぎ割引、時間帯割引、シニア割引など公共交通利用のインセンティブを高める仕組みの導入の検討)

3)観光客の公共交通活用対策

交通結節点の有効活用(てだこ浦西駅でのレンタカー施設の整備等)

分かりやすい情報提供、ビッグデータやIoT活用など最先端の取り組み

(ETC2.0等のビックデータによる分析に基づいた道路渋滞対策やレンタカー関連の交通安全対策)

クルーズ船の観光客の受け入れ体制の整備

4)賢い道路の利用

県民意識への効果的な働きかけ(企業の自家用車から公共交通への転換に対応するインセンティブ(手当等)の付与の検討)、交通需要の分散、平準化(県・市・企業への時差出勤の拡大)

【新たな交通環境の実現に向けて】

フォローアップ体制の整備

新しい交通環境を導入するためのビッグデータ等を活用した調査・分析の推進

自動運転など全国のモデルとなる先進的取組の導入